

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/12/04

## ビッグイベント通過で動きづらいか

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	⇒	レンジ形成の様子 予想レンジ: 131.000~135.000円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	⇒	ユーロ、ドル共に材料不足 予想レンジ: 1.15500~1.20900ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	⇒	Brexit交渉に一喜一憂 予想レンジ: 146.000~154.000円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	⇒	EU首脳会議と米FOMCが焦点 予想レンジ: 1.31500~1.37000ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

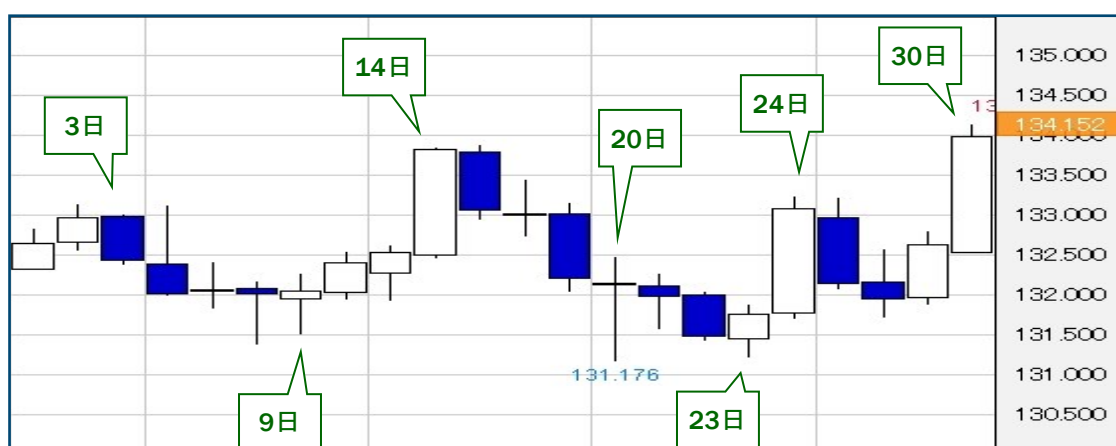
Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## ユーロ/円 11月の推移

EUR/JPY

11月のユーロ/円相場は131.176～134.146円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.2%の上昇(ユーロ高・円安)となった。

スペイン・カタルーニャ州の独立問題や独連立交渉の難航などが伝わるも、いずれもユーロ相場への影響は限定的であった。また、27日に「(日本)政府は北朝鮮の弾道ミサイルの発射準備とみられる信号を感知し警戒を強めている」と報じられる(29日にミサイル発射)も、地政学的リスクに対する反応は今一つとなるなど、全般的に手がかり材料難の展開が続いた。月間の値幅はわずか3円にも満たない、2017年7月以来(2.8円弱)以来となる小動きであった。背景には、10月の欧州中銀(ECB)理事会で2018年9月までの債券買い入れ策を発表した事により、金融政策への関心が低下している事もありそうだ。



## 四本値

OPEN	132.333
HIGH	134.146
LOW	131.176
CLOSE	134.002

3日	スペインの高等裁判所は、ベルギーに滞在していたプチデモン・カタルーニャ州前知事(10月27日時点でラホイ首相により解任)らに対し、逮捕状を発行。その後、同氏はベルギー警察に出頭した。
9日	日経平均が約26年ぶり高値を記録するも、その後800円超急反落するなど、大荒れの展開に。これに反応してユーロ/円は神経質な値動きとなった。
14日	独7-9月期国内総生産(GDP)・速報値は前期比+0.8%、前年比+2.3%と、市場予想(+0.6%、+2.0%)を上回った。これを受けてユーロ買いが活発化した。なお、独11月ZEW景気期待指数は18.7と市場予想(19.5)には届かなかったが、前回(17.6)から上昇した。またユーロ圏11月ZEW景気期待指数も30.9と前回(26.7)を上回った。
20日	独自由民主党(FDP)が、メルケル首相率いるキリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)、緑の党による連立協議から撤退。FDPは移民・難民や環境など主要政策で妥協点を見出せなかったためと主張した。これによりメルケル首相が緑の党との少数与党樹立に踏み切るか、新たな選挙の実施が必要となり、4選に不透明感が漂った事からユーロ売りが優勢となった。
23日	独11月製造業PMIが62.5と市場予想(60.4)を上回り、10月(60.6)から上昇。なお、その後発表されたユーロ圏の11月製造業PMIも60.0と市場予想(58.2)を上回った。その後公表されたECB議事録は「オープンエンドの量的緩和維持に幅広い支持があったが、一部は明確な終了日を求めた」として、量的緩和の終了時期の取り扱いをめぐる活発な議論が交わされていた事が明らかとなった。
24日	メルケル首相率いる独キリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)との連立を解消して下野する方針を示していた第2党のドイツ社会民主党(SPD)が、政治停滞を回避するためにメルケル首相と協議する事で幹部会が合意。独政局の不透明感が後退したとの見方からユーロ買いが優勢となった。なお、独11月Ifo景況感指数は市場予想(116.7)を上回る117.5と、2カ月連続で過去最高を記録した。
30日	ユーロ圏11月消費者物価指数・速報が前年比+1.5%と予想(+1.6%)を下回った事から、ユーロが弱含むも一時的。しかし、その後は米共和党のマケイン上院議員が、上院の税制改革法案の支持を表明した事を受けて法案の年内成立期待が高まり、米国株が上昇した事もあり、134.10円台まで反発した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# EUR/JPY

## 日 経 平 均

## 独 D A X

## 独2年債利回り

## 独10年債利回り

OPEN	22144.92
HIGH	23382.15
LOW	21972.34
CLOSE	22724.96

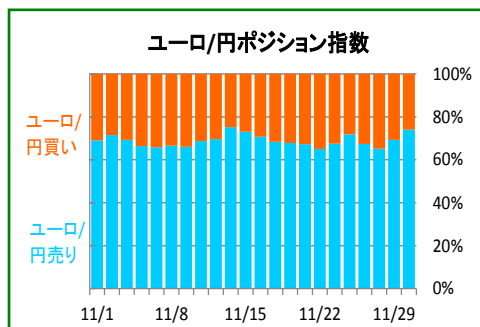
OPEN	13342.44
HIGH	13525.56
LOW	12847.88
CLOSE	13023.98

OPEN	-0.752%
HIGH	-0.669%
LOW	-0.767%
CLOSE	-0.684%

OPEN	0.368%
HIGH	0.429%
LOW	0.309%
CLOSE	0.367%

## 11月のポジション動向

## 12月のユーロ圏の注目材料



- ・ユーロ圏財務相会合(4日)
- ・10月ユーロ圏小売売上高(5日)
- ・EU経済・財務相理事会(5日)
- ・12月独ZEW景気期待指数(12日)
- ・10月ユーロ圏鉱工業生産(13日)
- ・欧州中銀金融政策発表(14日)
- ・12月独/ユーロ圏製造業PMI・速報(14日)
- ・12月独Ifo景況感指数(19日)
- ・12月独消費者物価指数・速報値(29日)

## 12月の見通し

### 月間指標カレンダー(外部リンク)

11月のユーロ/円相場は、値幅がわずか3円弱と、2017年7月以来となる小動きであった。日足チャート上では、9月以降は134円台半ばが天井、131円台前半が底となるレンジを形成している。もみ合い前が上昇トレンドであったことからレンジは上抜けに分がありそうだが、下抜けた場合は下落トレンド入りの展開も想定される。引き続き、レンジブレイクを待つ展開となりうだ。

材料面では、ユーロ、円ともに手がかりとなりそうなものは少なく、こう着相場入りをうかがわせる。今月の欧州中銀(ECB)理事会については、前回10月に緩和縮小策を発表した直後であるため、金融政策の現状維持が見込まれる。また日銀金融政策決定会合(20-21日)についても金融政策の変更を予想する声は皆無であり、こちらも手がかり材料になりにくいと見る。(川畑)

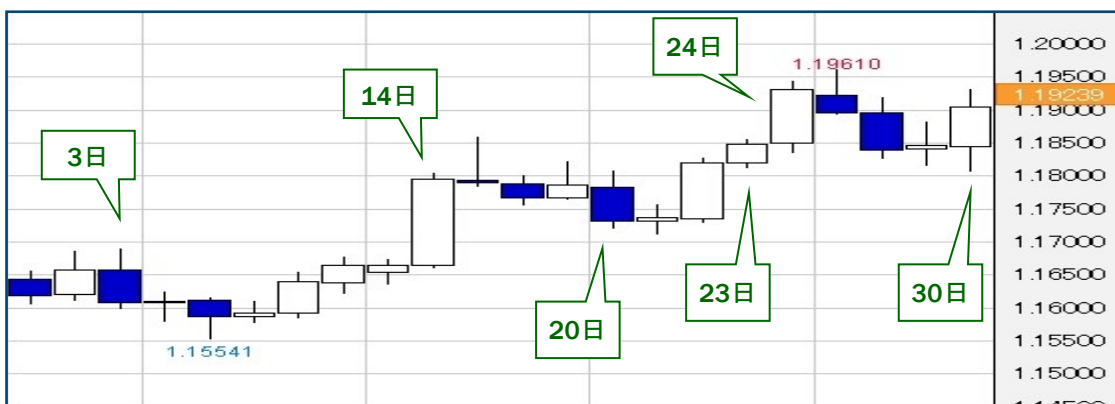
(予想レンジ: 131.000~135.000円)

## ユーロ/ドル 11月の推移

EUR/USD

11月のユーロ/ドル相場は1.15541～1.19610ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.2%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。

前半は10月の欧州中銀(ECB)理事会を通過したことによる調整が続き、7日に1.1550ドル台まで下落。しかし、14日に発表された独経済指標が相次いで良好な結果となった事などから反発。米税制改革案の年内通過は困難との見方を始め、ロシアゲート疑惑が再浮上した事や、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録でインフレ鈍化が懸念された事などによるドル売りの動きも上昇を後押しすると、27日に1.1960ドル台まで反発した。



## 四本値

OPEN	1.16442
HIGH	1.19610
LOW	1.15541
CLOSE	1.19059

3日	スペインの高等裁判所は、ベルギーに滞在していたプチデモン・カタルーニャ州前知事(10月27日時点でラホイ首相により解任)らに対し、逮捕状を発行。その後、同氏はベルギー警察に出頭した。
14日	独7-9月期国内総生産(GDP)・速報値は前期比+0.8%、前年比+2.3%と、市場予想(+0.6%、+2.0%)を上回った。これを受けてユーロ買いが活発化した。なお、独11月ZEW景気期待指数は18.7と市場予想(19.5)には届かなかったが、前回(17.6)から上昇した。またユーロ圏11月ZEW景気期待指数も30.9と前回(26.7)を上回った。
20日	独自由民主党(FDP)が、メルケル首相率いるキリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)、緑の党による連立協議から撤退。FDPは移民・難民や環境など主要政策で妥協点を見出せなかったためと主張した。これによりメルケル首相が緑の党との少数与党樹立に踏み切るか、新たな選挙の実施が必要となり、4選に不透明感が漂った事からユーロ売りが優勢となった。
23日	独11月製造業PMIが62.5と市場予想(60.4)を上回り、10月(60.6)から上昇。なお、その後発表されたユーロ圏の11月製造業PMIも60.0と市場予想(58.2)を上回った。その後公表されたECB議事録は「オープンエンドの量的緩和維持に幅広い支持があったが、一部は明確な終了日を求めた」として、量的緩和の終了時期の取り扱いをめぐる活発な議論が交わされていた事が明らかとなった。
24日	メルケル首相率いる独キリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)との連立を解消して下野する方針を示していた第2党のドイツ社会民主党(SPD)が、政治停滞を回避するためにメルケル首相と協議する事で幹部会が合意。独政局の不透明感が後退したとの見方からユーロ買いが優勢となった。なお、独11月Ifo景況感指数は市場予想(116.7)を上回る117.5と、2カ月連続で過去最高を記録した。
30日	ユーロ圏11月消費者物価指数・速報が前年比+1.5%と予想(+1.6%)を下回った事から、ユーロ/ドルは一時1.1800ドル台まで下落。しかし、米紙が「米政府がティラーソン國務長官を年内にも更迭し、後任にポンペオ中央情報局(CIA)長官の起用を検討」と報じられた他、月末最終日のロンドン・フィキシング(日本時間25時)に向けてドル売りが持ち込まれたとの観測も相まって、1.1930ドル前後まで反発した。



## NYダウ平均

OPEN	23442.90
HIGH	24327.82
LOW	23242.75
CLOSE	24272.35

## 独10年債利回り

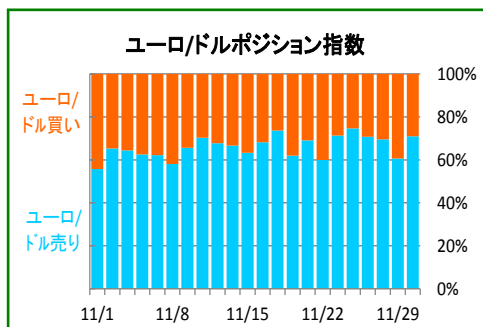
OPEN	0.368%
HIGH	0.429%
LOW	0.309%
CLOSE	0.367%

## 米10年債利回り

OPEN	2.3793%
HIGH	2.4347%
LOW	2.3019%
CLOSE	2.4097%

## 11月のポジション動向

## 12月のユーロ圏の注目材料



- ・ユーロ圏財務相会合(4日)
- ・10月ユーロ圏小売売上高(5日)
- ・EU経済・財務相理事会(5日)
- ・12月独ZEW景気期待指数(12日)
- ・10月ユーロ圏鉱工業生産(13日)
- ・欧州中銀金融政策発表(14日)
- ・12月独/ユーロ圏製造業PMI・速報(14日)
- ・12月独Ifo景況感指数(19日)
- ・12月独消費者物価指数・速報値(29日)

## 12月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

2017年のユーロ/ドル相場は欧州中銀(ECB)の緩和縮小期待を背景にほぼ一直線で上昇してきたが、10月のECB理事会で(2018年9月までの)緩和縮小策を発表した事で、その流れが一服を迎える可能性が出てきた。月足で見ると11月は高安約400ポイントとそれなりの動きであったが、高値は9月高値(1.20922ドル)に届かないなど、勢いは今一つであった。当面の間は11月安値(1.15541ドル)~9月高値でレンジを形成する可能性がある。ユーロ域内のインフレの高進など経済状況の大幅な変化がない限り、2018年春~夏頃まではECBが金融政策の次の一手を打ち出す可能性が小さい事も、レンジ相場入りとの見方を後押ししそうだ。

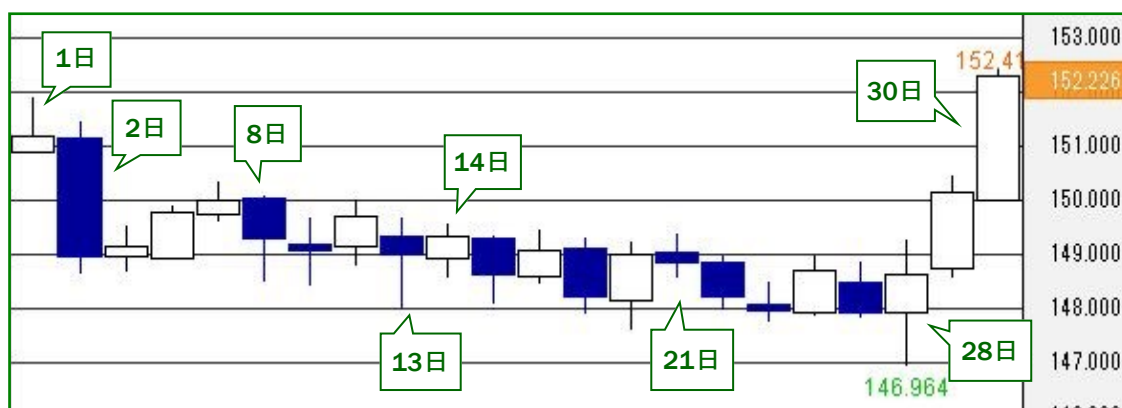
そうした中では、ドルの動きを気する事となりそうだが、米連邦公開市場委員会(FOMC、12-13日)を通過するとクリスマスシーズンであり、こちらも大きな動きを期待しづらいと見る。FOMCについても金利先物市場で利上げがほぼ織り込まれている事もあり、相場を大きく動かす材料になりにくいと見る。ただし、米税制改革案の年内成立(=ドル買い要因)や「ロシアゲート」問題の再浮上(=ドル売り要因)などがあれば相場を動かす事も考えられるので注意したい。(川畑)

(予想レンジ:1.15500~1.20900ドル)

# GBP/JPY

## ポンド/円 11月の推移

11月のポンド/円相場は146.964～152.415円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.9%の上昇(ポンド高・円安)となった。英中銀(BOE)は2日に開いた金融政策委員会(MPC)で利上げを発表したが、市場はポンド売りで反応。10年4カ月ぶりの利上げも、BOEの引締めサイクルのスタートを示すシグナルではないと市場に受け止められた。その後も、円が全般的に強含んだ事などからじり安の展開となり、28日には146.964円まで下落した。しかし、英国がEU離脱(Brexit)に伴い支払う清算金の交渉に一定のメドが付くとポンドは急反発。EUとの交渉が次のステップである通商問題に早期に向かうとの期待が広がり、30日には一気に152円台を回復して9月22日以来の高値を付けた。



四本値	
OPEN	150.898
HIGH	152.415
LOW	146.964
CLOSE	152.301

<b>1日</b>	英10月製造業PMIは56.3と市場予想(55.9)を上回った事を受けて一時ポンド買いが強まった。
<b>2日</b>	BOEは政策金利を予想通り0.25%から0.50%に引き上げた。同時に発表した議事録では利上げが全会一致ではなく9名中2名が据え置きを主張した事が明らかとなった。また、インフレレポートも同時に公表し、2018年のインフレ予想を8月時点の2.58%から2.37%に引き下げた。市場はこれらをハト派的と受け止め、ポンド売りが活発化した。なお、カーニー総裁はその後の会見で「インフレが利上げなしに目標へ戻る可能性は低い」「最初の利上げはいくらか不確実性を生み出すが、影響が通常より大きいと考える理由はない」「インフレ率は2度の利上げでも2020年に目標をやや上回るだろう」と述べた。
<b>8日</b>	パテル英国国際開発相が、イスラエルで同国政府関係者と会談していた事実を適切に公表しなかった事で、閣僚の行動規範違反に問われ更迭された。メイ政権では、セクハラ問題でファロン英国防相が辞任したばかりで、政権基盤の弱体化が浮き彫りになったとの見方からポンド売りが優勢となった。
<b>13日</b>	前週末に英紙が「英議会の保守党(与党)議員40人がメイ首相に対する不信任を表明する書簡の署名に同意」と報じた事が材料視されてポンド売りが優勢となった。なお、同紙は英最大野党・労働党のコービン党首の発言として「(メイ首相は)首相の座にいても指導力がないということが、あらゆる角度から示唆されている」と報じた。
<b>14日</b>	英10月消費者物価指数は前年比+3.0%、同小売物価指数は前年比+4.0%、同生産者物価指数は前年比+2.8%と、いずれも市場予想(+3.1%、+4.1%、+2.9%)を僅かに下回った。これを受けて一時ポンド売りが強まった。しかし、ポンド売りよりもドル売り圧力が強く、ポンド/ドル相場が上昇したため、ポンド/円も持ち直した。
<b>21日</b>	カンリフBOE副総裁が議会証言に立ち「英消費者物価指数(CPI)は2017年第4四半期にピークを迎える見通し」と発言。同じ証言の場でサンダース英中銀金融政策委員会(MPC)委員が「英CPIはしばらく目標を上回ってとどまるだろう」と述べたほか、ブリハ英MPC委員は「利上げを支持する全ての兆しを待てば、ほぼ確実に遅すぎるだろう」との見解を示した。また、マカファーティ英MPC委員は「平均失業率は4.5%を下回る可能性」に言及した。
<b>28日</b>	英政府がBrexitに伴い支払う清算金を巡り大筋合意したと報じられるとポンドが急進。なお、報道によると、最終的な清算金の規模は解釈の余地を残しつつ、450億～550億ユーロになる見通しとの事。ただその後、英政府高官は、このような交渉は「認識していない」と述べた。
<b>30日</b>	Brexit交渉の進展期待によるポンド買いに加え、米国株の大幅高などを受けた円売りが強まる中、ポンド/円が大幅に上昇。なお、この日EU高官はBrexitに伴う清算金について「正式な提案はまだなされていないが、非公式には合意が得られており、土壇場の方針転換がなければ全て問題ないだろう」「英国は企業の移転について懸念しているため、移行期間の問題をできるだけ早く解決したい考えだ」などと述べた。

## GBP/JPY

## 日経平均

OPEN	22144.92
HIGH	23382.15
LOW	21972.34
CLOSE	22724.96

## FTSE100

OPEN	7493.08
HIGH	7582.85
LOW	7326.67
CLOSE	7326.67

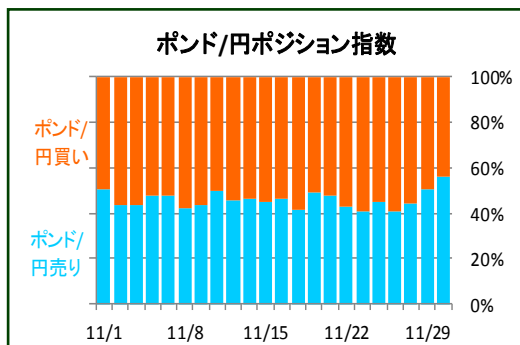
## 英2年債利回り

OPEN	0.465%
HIGH	0.552%
LOW	0.390%
CLOSE	0.521%

## 英10年債利回り

OPEN	1.343%
HIGH	1.380%
LOW	1.195%
CLOSE	1.330%

## 11月のポジション動向



## 12月の英国の注目材料

- ・11月英製造業PMI(1日)
- ・11月英建設業PMI(4日)
- ・11月英サービス業PMI(5日)
- ・10月英貿易収支(8日)
- ・10月英鉱工業生産(8日)
- ・11月英消費者物価指数(12日)
- ・11月英小売物価指数(12日)
- ・11月英生産者物価指数(12日)
- ・11月英雇用統計(13日)
- ・BOE政策金利発表(14日)
- ・BOE議事録(14日)
- ・11月英小売売上高(14日)
- ・EU首脳会議(14-15日)
- ・7-9月期英GDP・確報値(22日)

## 12月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

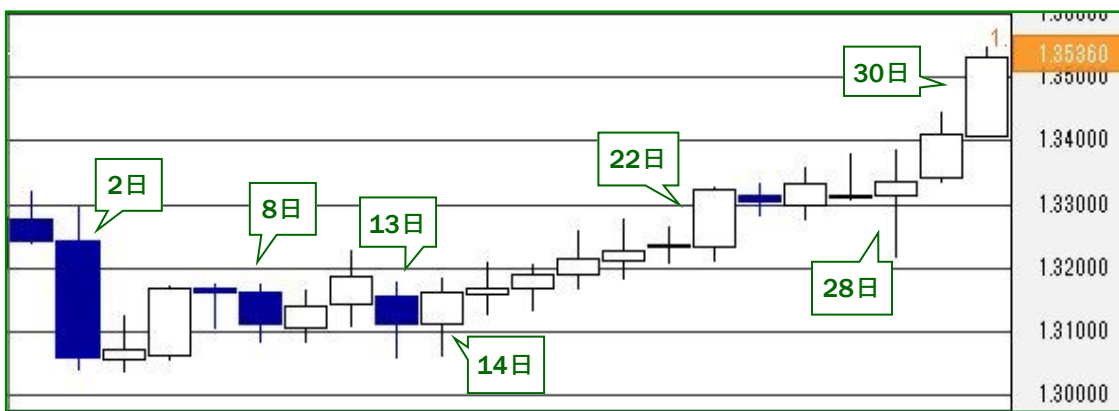
11月後半のポンドの反発は、英国の欧州連合(EU)離脱(Brexit)に関する協議が進展するとの期待によるところが大きかった。難航していた清算金の交渉に一定のメドがついた事で、Brexit交渉は次のステップである通商面に向かうとの期待が浮上している。ただ、12月14-15日のEU首脳会議で通商条件の交渉に入るためには、清算金のほかに「在英EU市民の権利保証」と「アイルランド国境問題の解消」が必要になるというのがEUの主張だ。EU首脳会議まで水面下の駆け引きが続くと見られ、12月のポンド/円相場は、引き続きBrexit絡みの報道に一喜一憂する公算が大きい。また、EU首脳会議が実質的に年内最後の重要イベントとなるため、12月後半は年末に向けたポジション調整の動きに左右される可能性が高そうだ。なお、シカゴマーカントイル取引所(CME)の国際通貨先物市場(IMM)における投機筋のポジションは、円の売り越しが高水準を維持している一方、ポンドは買い越しに転じている(11月28日時点)。このままなら、ポジション調整は円買い・ポンド売りが優勢となる可能性もあろう。(神田)

(予想レンジ: 146.000-154.000円)

# ポンド/ドル 11月の推移

# GBP/USD

11月のポンド/ドル相場は、1.30395～1.35488ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.9%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。英中銀(BOE)による2日の10年4カ月ぶりの利上げは、積極的な引締めスタンスへの移行を示すものではないとの見方からポンド売り材料となった。また、上旬はメイ政権の弱体化懸念が広がった事もポンドの重しとなった。ただ、その後は、米税制改革への不透明感などからドル売りが優勢となったためポンド/ドルは反発。下旬には、英国の欧州連合(EU)離脱(Brexit)に伴う清算金交渉が進展した事を受けてポンドを買い戻す動きが加速した。



四本値	
OPEN	1.32791
HIGH	1.35488
LOW	1.30395
CLOSE	1.35318

<b>2日</b>	BOEは政策金利を予想通り0.25%から0.50%に引き上げた。同時に発表した議事録では利上げが全会一致ではなく9名中2名が据え置きを主張した事が明らかとなった。また、インフレレポートも同時に公表し、2018年のインフレ予想を8月時点の2.58%から2.37%に引き下げた。市場はこれらをハト派的と受け止め、ポンド売りが活発化した。なお、カーニー総裁はその後の会見で「インフレが利上げなしに目標へ戻る可能性は低い」「最初の利上げはいくらか不確実性を生み出すが、影響が通常より大きいと考える理由はない」「インフレ率は2度の利上げでも2020年に目標をやや上回るだろう」と述べた。
<b>8日</b>	パテル英国国際開発相が、イスラエルで同国政府関係者と会談していた事実を適切に公表しなかった事で、閣僚の行動規範違反に問われ更迭された。メイ政権では、セクハラ問題でファロン英国防相が辞任したばかりで、政権基盤の弱体化が浮き彫りになったとの見方からポンド売りが優勢となった。
<b>13日</b>	前週末に英紙が「英議会の保守党(与党)議員40人がメイ首相に対する不信任を表明する書簡の署名に同意」と報じた事が材料視されてポンド売りが優勢となった。なお、同紙は英最大野党・労働党のコービン党首の発言として「(メイ首相は)首相の座にいても指導力がないということが、あらゆる角度から示唆されている」と報じた。
<b>14日</b>	英10月消費者物価指数は前年比+3.0%、同小売物価指数は前年比+4.0%、同生産者物価指数は前年比+2.8%と、いずれも市場予想(+3.1%、+4.1%、+2.9%)を僅かに下回った。これを受けて一時ポンド売りが強まった。しかし、ポンド売りよりも米税制改革への不透明感などからドル売り圧力が勝り、ポンド/ドルは反発した。
<b>22日</b>	イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が「速過ぎる引締めはインフレ率を2%未満で留める可能性がある」「低インフレが一時的かどうか確信が持てず、より長く続く可能性に留意」などと発言した事を受けてドルが軟化。その後、米10月耐久財受注が予想に反して減少した事や、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で「数人の当局者がインフレの弱さを理由に近い時期の利上げに反対」していた事が明らかになるとドルの下落に拍車がかかった。こうした中、ポンド/ドルは1.33ドル台に上伸した。
<b>28日</b>	英政府がBrexitに伴い支払う清算金を巡り大筋合意したと報じられるとポンドが急進。なお、報道によると、最終的な清算金の規模は解釈の余地を残しつつ、450億～550億ユーロになる見通しとの事。ただその後、英政府高官は、この様な交渉は「認識していない」と述べた。
<b>30日</b>	Brexit交渉の進展期待によるポンド買いが継続。なお、この日EU高官はBrexitに伴う清算金について「正式な提案はまだなされていないが、非公式には合意が得られており、土壇場の方針転換がなければ全て問題ないだろう」「英国は企業の移転について懸念しているため、移行期間の問題をできるだけ早く解決したい考えだ」と述べた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP/USD

## NYダウ平均

OPEN	23442.90
HIGH	24327.82
LOW	23242.75
CLOSE	24272.35

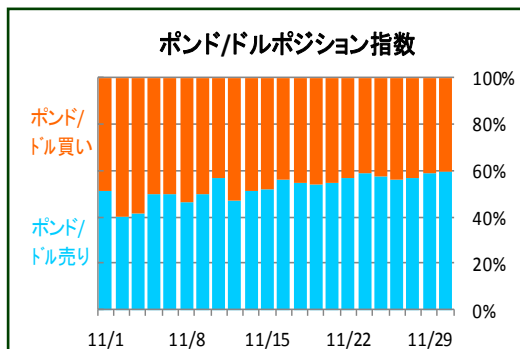
## 米10年債利回り

OPEN	2.3793%
HIGH	2.4347%
LOW	2.3019%
CLOSE	2.4097%

## 英10年債利回り

OPEN	1.343%
HIGH	1.380%
LOW	1.195%
CLOSE	1.330%

## 11月のポジション動向



## 12月の英国の注目材料

- ・11月英製造業PMI(1日)
- ・11月英建設業PMI(4日)
- ・11月英サービス業PMI(5日)
- ・10月英貿易収支(8日)
- ・10月英鉱工業生産(8日)
- ・11月英消費者物価指数(12日)
- ・11月英小売物価指数(12日)
- ・11月英生産者物価指数(12日)
- ・11月英雇用統計(13日)
- ・BOE政策金利発表(14日)
- ・BOE議事録(14日)
- ・11月英小売売上高(14日)
- ・EU首脳会議(14-15日)
- ・7-9月期英GDP・確報値(22日)

## 12月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

ポンド/ドル相場における12月の最大の注目イベントは14-15日の欧州連合(EU)首脳会議だろう。英国が欧州連合(EU)を離脱(Brexit)するにあたって、精算金、在英EU市民の権利、アイルランド国境問題という、「離脱前の条件」に関する交渉にメドをつけて、本丸の貿易・通商面などの「離脱後の関係」に関する交渉に移るか否かを判断するのが首脳会議の場になると見られている。協議が進展すれば、交渉期限(2019年3月)の到来による「合意なき離脱」が避けられるとの見方に繋がるため、ポンド買いの理由になりやすい反面、協議が難航すれば市場の懸念も高まる事になり、ポンド売りが強まりやすい。

その他、12月のポンド/ドル相場は、米連邦公開市場委員会(FOMC、12-13日)の影響も受ける事になりそうだ。今年3回目の利上げに踏み切る事は確実視されており、来年の利上げに対するFOMCの姿勢が焦点となろう。継続利上げに前向きなスタンスが示されればドル高(ポンド安)が進みやすい一方、追加利上げへの積極姿勢が見られなければドル安(ポンド高)に振れる可能性もある。

ポンド/ドル相場は、12月前半に予定されているこれら英米の重要イベントを消化しつつ、年末に向けて方向感を模索する事になりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 1.31500~1.37000ドル)